

秋田勉強会 カウントダウン企画！

後編

ゆらり秋田☆浪漫飛行

7月23日(土)、アルヴェ(秋田市民交流プラザ)を会場に開催される「第8回勉強会」に向け、前月号に引き続き、秋田の魅力を紹介します。

おや？秋田メンバーの皆さんが何やら神秘的な顔つきでミーティングされています。どうしたのでしょうか？
そおっと聞き耳を立ててみましょうか……

案内人 東北OM秋田メンバーの皆さん☆



中嶋:…ええっと、先月号のニューズレター、見ました。突然、本間長老とモトジークンが現れたとはいえ、とはいえず、ちょっと酒田の2人が目立ち過ぎじゃないですか？

ぼ、ぼ、僕は秋田メンバーのチーフとして、理紗さんと美沙緒さんなら大丈夫！と信じていたのに……。

理紗:ホントに、ごめんなさい。

私としたことが、途中からすっかり本間さん、モトジークンのペースに流されちゃって……でも、これも有りかなあなんて、つつい思っちゃって……

中嶋:…つついってえ。そ、そんなあ……。僕のいないところで……

ぶう〜っ!!

ずるいよ、ずるいよ〜!!!



美沙緒:…あ〜、もう分かったからあ〜。じゃ、今回の後編は、秋田メンバー&OMコアメンバーのコラボ企画で進めていきましょう！

中嶋:うう〜ん…ええ〜、でもお〜……

美沙緒:グダグダ言わない！そんな顔もしない！

さあ、張り切っていくよ〜！



秋田県内初！

大森町☆棚田オーナー制度！



美沙緒:私の地元、横手市大森町八沢木塚須沢集落では、集落12戸が総出で、先祖から受け継いだ13haの棚田を守り継いでいるんです。

理紗:継承の心が今なお続いているんですね。

美沙緒:はい！更に昨年から秋田県内初棚田オーナー制度をスタート！

農作業体験への参加を通じて、集落住民と一緒に棚田を保全してくれるサポーター(棚田オーナー)を募集しています。この活動に平元家も参加していて、私もお手伝いしています！



平元家のお母さんの味！

大森町の米粉のかりんとう！

りんごジュレ、そして恋咲！



本間:ど〜もお！本間長老で〜す！わしの登場が多いほどニューズレターの購読が増えるようじゃのお〜！やっぱり、わしや何か持つとるのかのお〜。まるで東北OMの齋藤佑樹やあ〜。後藤さん、どうやら、グッズでも売ってみんなかい？

後藤:いいかもしれませんね！OMのゆるキャラとして売り出してみますか。

本間:……じよ、冗談がぜよ。そ、そやそや、平元家の話に戻すぜよ、後藤さん！

後藤:そうですね。平元家と言えば、1月に開催したガールストークでも、美沙緒

ちゃんのお母さんの活動について触れてましたよね。

理紗:きっと、美沙緒ちゃんもお母さんの影響をガンガン受けてるんだね。でも、すごく楽しそう！

美沙緒:はい！すごく楽しいですよ！そのお母さんの自慢話をもう一つ！

手作りのお菓子を紹介しますね。

横手市大森町産というか、平元家の田んぼからできた米粉を使ったかりんとう、平鹿りんごを使ったりんごジュレ、そして秋田の伝統食こざきねりを現代風にアレンジした恋咲！どうぞ召し上がれ！

中嶋:これ、すごい美味しいですよ！何個でもいけそうです。

美沙緒:そうでしょう！どれも素朴で優しい味なのが自慢です。恋咲は、秋田県特産品開発コンクールで奨励賞を受賞したんですよ。





随所にある素朴で優しい味わい！

なんでも固めちゃう寒天文化！

理紗：やっぱり秋田って素朴な優しい味が至る所にあるような気がする。例えば色々なものを寒天で固めてしま

う文化もその一つじゃないかな。

中嶋：あるある！秋田では当たり前と思ってるけど、県外の方からはどのように写りますかね。

理紗：コーヒー、牛乳はもちろん、たまごサラダやマヨネーズサラダ等も寒天にしてしまうもんね。

公民館の会合でおばちゃん達特製の卵&くだもの寒天をもらってきたのでどうぞ。

後藤：これも旨い。秋田の寒天文化、要チェックです！

理紗：地域の会合には必需品のアイテムなんですよ♪



↑おばちゃん特製の「卵&くだもの寒天」旨そう☆
←『旨い！』ってこんな顔でしょう！

秋田のお土産にどうでしょう！

老舗パン屋きやろつとの米ぬかクッキー



美沙緒：そういえば私もお土産、買ってきましたよ。

じゃ～ん！秋田市南通にある老舗パン屋「パンとケーキの店きやろつと」のクッキーです！このクッキーはなんと米ぬかを使用してるんです！それにアレルギーの方向けに卵不使用の焼き菓子もたくさんあるんです。ラッピングもかわいくて、ちょお～お土産にオススメですよ！

後藤：女性アレルギーの森くんを買っていいかなあ…。



森(回想)：わたくし男、森俊…不器用な男ですきい…。
美沙緒：そういうアレルギーの方向けではないんですけど、まあお試し感覚でお土産にしてみてください♪



行列必至の絶品スイーツを味わうべし！

生の果物シロップがたまらん！広栄堂「かき氷」

中嶋：理紗さん、美沙緒さんオススメの逸品に続いて私、中嶋結也がセレクトするのは絶品スイーツです！

秋田の夏の風物詩でもある広栄堂の絶品かき氷！このシロップは、生の果物を使ってるのが有名で、種類も豊富。県内外のお客さんで賑わう行列必至の人気スポットなんです。

後藤：ぜひ秋田勉強会が始まる前に食べておきたいですね。

理紗：そうですね。勉強会は午後2時からですから、体も頭も冷んやりさせてから参加していただくといいかも♪



↑ソフトクリーム乗せ☆
グレープフルーツの果実も
たまらんぜよ☆→



本間：そうじゃのお、わしや何を選ぶかう今から楽しみじや！

中嶋：そんな本間さんにオススメしたいのは「生グレープフルーツ ソフトクリーム 乗せ」略して「生グソ」。

お店でもかなりの人気メニューですし、うちの妻の静香も思わず踊り出すぐらいですから！ほら見てやってください。

静香：らららあ～♪らららあ～♪♪♪

本間：…どえりやあ～ニューキャラが現れたもんだのお～！
しかし、「生グソ」つつゆう略し方はどうじゃろう？どうも騙されとる気がしゆう。理紗ちゃん、ホントのところどうなんやろか？ホント？ウソ？



↑中嶋静香さんなんです☆
素顔は次ページを！

秋田の道端に咲く

どこか懐かしい味わいスイーツ「ババヘラアイス」

児玉：そういえばスイーツに目がない國松さんの姿が見えないですね。

松永：先月号のことがあったからのお、ちょっと一発鉄拳入れとったあ。

児玉：えっ！すっげえカッコイイ!!ところで松永さん、ババヘラ知ってます？

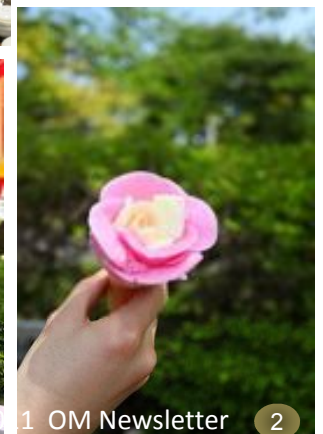
道端でパラソルの下、アイス売っているおばさんを発見したらそれが「ババヘラ」です。「ババ」が「ヘラ」でアイスを盛るからババヘラ。

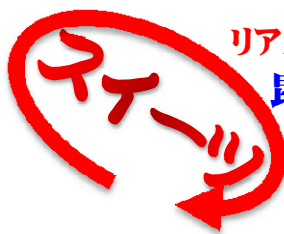
本間：なにに。じゃ、ワシがヘラで売ったら「ジジヘラ」じゃのう。ガハハッ一同：……………。

松永：ここにも鉄拳入れなアカン奴がおったのお。

児玉：昔は俗称だったので「おばちゃん、ババヘラ頂戴」と言う「ババ」って言うな！と怒られたみたいですけど、今はババヘラと言ってもOKです。
アイスがバラの花のように盛られた「バラ盛り」に当たった人はラッキーですよ☆

後藤：勉強会当日、車で来る方は、ぜひ道端のパラソルをチェックしてほしいですね。





リアル＆本格スイーツを堪能しよう！

昆虫チョコ＆御献上カスティーラ

静香: どうも！年中無休ダイエット営業中の
中嶋静香です☆よろしくお願ひします！

私がオススメするのが、まずは横手市小松屋

本店で販売してる昆虫チョコ！どうですか、このハイクオリティ、チョコの王様チョコキング…
いえ、このリアルさ、もはやムシキングと言っても過言ではありませんよね☆

後藤: …い、いやあ…確かにリアルですよ。ただ、ちょっとリアル過ぎて、食べれるかなあ(苦笑)

静香: ええ～！すごい美味しいですよ♪はい、後藤さん、お一つどうぞ！

後藤: も、もう少し酔いがまわるまで置いておこうかなあ…。

真紀: あっ、じゃ、それ、私、いただきますね♪♪もうこれで3匹食べちゃいました♪

男性陣: ……………ゴ、…ゴマキ(後藤真紀@酒田市)ちゃん？…。



静香: 次に紹介するのは秋田市保戸野の御献上カスティーラ
です。もったりとした濃厚な口当たり、鼻に抜ける酸味、どれを
とってもワインにぴったりなチーズケーキ。

本間: なにに。ワインにぴったりじゃと。ならワシも一つ。

静香: ワイン好きはもちろん、そうでない人もご賞味あれ！

私たちガールズは昆虫チョコとカスティーラで、もういい感じです！



↑あなたは食べれます？昆虫チョコ♪



秋田のお酒っこ、飲んでたんせ！

由利本庄の純米吟醸鳥海山＆雪の茅舎山廃純米

悦子: 皆さん、はじめまして☆

“Think globally, DRINK locally”日本酒loverの戸嶋悦子です。

私がオススメするのは、やはり秋田の“心”とも言うべき、お酒っこ！

中嶋: 東北のお酒はどれも美味しいですけど、秋田も負けてませんよね！

悦子: 当然です。特にオススメするのが、私の地元由利本庄を代表するこちら
のお酒っこ。

まずは「雪の茅舎 山廃純米」です。こちらは飲みごたえのあるコクと喉越し
のキレが良いバランスのとれた山廃仕込みの純米酒で、飲み飽きしない酒
質でやや冷やしても、燗をつけてもおいしくいただけます。

更にこちらの「純米吟醸鳥海山」。丹精込めて育て上げられた美山錦の
特上米を100パーセント使用し、杜氏と蔵人が、その米との対話と伝統の技で
醸し上げた逸品。華やかな香りと穏やかな口あたりが特徴です。

中嶋: 悦子ちゃんは、今年の3月にはLAで日本酒をアピールするなど、
秋田の魅力を世界に広めてるんです！

僕的には、こちらの「鳥海山(ちょうかいさん)」の方が好きかなあ♪

本間: …ナカジー、今、大事なとこ、言い間違えてたぜよ。

「鳥海山(ちょうかいさん)」やろ。“さん”！飲みすぎたかのお。

中嶋: ははは。全然間違ってますよ。秋田では“さん”ですもん。

本間: ほお～…ワシも酒田、いや山形の男としてそこは譲れんぜよ。

美沙緒: ええ加減にしてつかあ～さい!!!

呼び名は、「さん」と「さん」があるとはいえ、鳥海山を愛する心は一つじゃないですか！

中嶋・本間: は～い…。

美沙緒: そういえば、日本酒と言えば、飯嶋弥生さんから秋田のオススメスポットがあるんです
よね。



↑私たちガールズが秋田でお待ちしてます♪



↑“さん！”(本間)、いえいえ、“さん”ですよ。(中嶋)



仙人蔵～東北を代表する蔵元「高清水」の酒蔵を満喫！～

弥生: 皆さん、はじめまして！潟上市役所の飯嶋弥生です。

私が紹介する秋田のオススメスポットは、仙人蔵です！ここは、東北を代表する日本酒の蔵元「高清水」の施設で、
仕込蔵も併設されていて、お酒好きにはたまらない雰囲気を出しています。ホントにいい雰囲気ですよ♪

中嶋: いいですよ。確か、あの雰囲気の中で、演奏会もできるんですよね？

弥生: そうなんです！酒蔵見学は特に冬がおすすめですが、見学のほかに定期的に演奏会や朗
読会も開催されているので、そこもチェックしてもらえると嬉しいですね♪

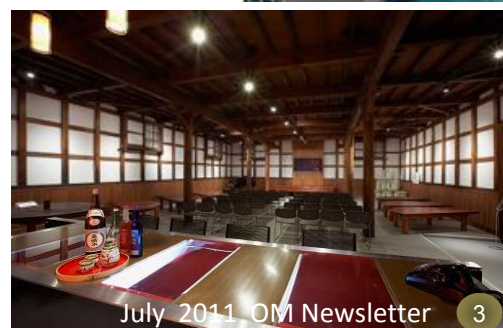


中嶋: 演奏といえば、弥生さんは、大曲の吹奏楽団に入団されているんです
よね。

弥生: よく御存じで♪私はフルートより少し小さい「ピッコロ」を主に担当して
るんですよ。ぜひ、皆さんにもお聴かせしたいですね♪

中嶋: オーケストラの演奏っていいですよ。思わずこんな感じで癒されちゃ
いますよね。

弥生: …は、はい。とにかく仙人蔵、どうぞチェックしてくださいね♪





明治～昭和初期の街並みを歩いてみませんか

増田くらしっくロード～蔵のまち 横手市増田町～

美沙緒:「蔵」といえば、横手市の増田町もオススメです♪

横手市増田町には、かつて繁栄を極めた中心商店街(400m)に、明治～昭和初期に建てられた「内蔵」が40棟以上も並んでいます！

滝本:おお！美沙緒さん、いいところに目を付けましたね♪

この増田地区は、秋田県の南部、成瀬川と皆瀬川の合流地点に位置していて、とても土地が肥沃で良い米と水に恵まれていたため、昔から酒造りが盛んな地域だったんですね。

それに養蚕、みそ、醤油の生産も多かったことから商人も多く存在し、現在もお、その繁栄ぶりを示す蔵が数多く立ち並んでいるんです。

中嶋:ど、どうして、そんなに詳しいんですか？

滝本:中嶋くん、いい質問ですね。でも、まあ、これぐらい、単なる秋田の雑学ですよ、雑学♪

美沙緒:現在、増田では、この街並みを「くらしっくロード」と名付けて、売り出し中です。

稲庭干饅頭製造元佐藤養助商店の「漆蔵資料館」として一般公開されている土蔵は、特に必見です！ぜひ、お時間があつたら「蔵のまち」増田を訪ねてみてください♪



特集 ゆらり秋田★浪漫飛行



巨大キャンパスに描かれた秋田の春夏秋冬は圧巻！

藤田嗣治作品を堪能できる秋田美術館は要チェック！

中嶋:秋田美術館(平野政吉美術館)は、千秋公園内のお堀から飛び出す特徴的な三角屋根の建物で、西洋画、特に藤田嗣治の作品を多く所蔵しています！

滝本:さっすが中嶋くん。いいところに目を付けましたね。藤田嗣治は知る人ぞ知る有名な日本人画家で、フランスでは最も有名な日本人画家なんですね。

中嶋:ええ。中でも藤田作の『秋田の行事』は、美術館の壁一面分もある巨大なキャンパスに、秋田の春夏秋冬の行事を描いた大作で、圧巻の一言！

滝本:さっすが中嶋くん。ポイントをついてますねえ。補足すると、高さ3.65m、幅20.5mの巨大キャンパスですよ。更に、平野政吉という人物は、秋田藩主佐竹公と共に水戸から秋田に移住した家来の子孫で、秋田一の破天荒な大富豪と言われ、彼の残した藤田嗣治の多数のコレクション遺産は世界に誇れるものなんですね。

中嶋:…か、かなりの補足、ありがとうございます。この美術館は、平成24年に新築移転が決定されているため、現在の美術館で「秋田の行事」を見られるのは今年が最後になるかもしれませんよ。



ハチ公の出身地は実は大館！

待ち合わせ場所は

大館駅のハチ公前？！

美沙緒:そういえば、皆さん、渋谷駅前にしかないと思われているハチ公像が、大館市の大館駅前にもいるんですよ！

実は、忠犬ハチ公は大館市出身なのです！皆さん、知っていましたか？

滝本:さっすが平元さん。いいところに目を付けましたね。ちょっとだけ補足させていただくと、ハチ公は大館市の生まれで、1924年(大正13年)1月14日に大館駅から上京しているんですね。

その後に主人への忠誠で有名になったことから、1935年(昭和10年)7月に大館駅前にもハチ公像が建てられたんですね。更にですね…

美沙緒:い、いや、滝本さん、すべてここで話しかうと秋田への探究心が薄れちゃうんで、そこから先は、皆さんにお任せしましょう！

四国出身の私もその事実に地味に驚きつつ、実物を見たときは結構感動しました。

ぜひ、皆さんにも味わっていただきたいものです♪



「なまはげ」に変身すると人格も変わる!?! ～男鹿「なまはげ館」～

滝本:最後に、なまはげを堪能したい方にオススメの男鹿市「なまはげ館」を紹介します。なまはげ伝説、そのルーツを貴重な資料の数々から知ることができます。

児玉:男鹿の「なまはげ」は実は地域によって微妙に違うんですね。

滝本:さっすが男鹿を愛する児玉くん。いいところに目を付けましたねえ。

少しだけ補足すると、男鹿市内約60地区で行われている「なまはげ」の面はそれぞれ微妙に風体を変わってんです。それら各地区の面・衣装を一同に展示されているので、見ごたえ十分ですよ。

美沙緒:確か、なまはげの衣装を身に付けることができる「なまはげ変身コーナー」もありますよね～。身につけると、「うお～!」って叫びたくなるらしいですよ。ストレス発散に人格変えてみるのもいいかも♪

本間:そうかええ。それもええのお♪

しかし、OMIには酒が入ると人格変わる奴がよ～おるからのお。それでなまはげの面までかぶつたらやばいぜよ(笑)



↑あなたも「なまはげ」に変身できる！

開催直前 独断による見どころ紹介！

第8回勉強会 in 秋田

～飛び出す つながる はじめの一步～

理紗: 先月号から2回にわたり秋田の魅力を紹介してきましたが、いかがだったでしょうか。ゆら～り秋田を散策してみたい気持ちになっていただけましたかね♪

本間: いやあ、きっちり予習はできたぜよ。あとは直に自分の足で、目で、舌で、感じるまで！のお、後藤さんよお！

後藤: そうですね。それと、勉強会では秋田の魅力を紹介してくれた秋田メンバーの皆さんの人間性に触れ、ぜひ絆を深めてもらいたいですね。

本間: その辺の気配りが憎い奴じゃのお～♪

理紗: それでは、この企画の最後に、開催を目前に控えた秋田勉強会の見どころを紹介していきましょう♪

日時 7月23日 (Sat)
14:00～17:45

会場 アルヴェ 4F 洋室C
(秋田市民交流プラザ)

Check! (JR秋田駅東口直結)

大森教授の講話は

要チェックぜよお～！

本間: 何と言っても大森教授の講話を早く聴きたいぜよ！

今、求められている地域の担い手とは？
職種を超えて行政と民間の協働のまちづくりに向けて、ワシら自身がどう在るべきか？
自分自身に問い直してみる絶好の機会ぜよ！

美沙緒: なんだか本間さんらしくないコメントですねえ♪

中嶋: 恩師である大森教授をぜひ秋田にお呼びしたい！と思っただので、ホントに楽しみです♪

参加料 一般1,500円 学生500円
(ともに土産つき)

交流会 一般4,500円 学生4,000円

交流会を仕切る新コンビに注目！

後藤: 秋田の旨い肴と酒を囲んで行なわれる交流会も楽しみの一つですね♪

中嶋: 今回はそれだけじゃないですよ！なんとと言ってもこの場を仕切るのは秋田の中嶋静香さん＆北上市の佐藤美和子さん。まさに**秋田美人＆南部美人のコラボ**です☆

本間: いつものおっさん2人組みでは暑苦しいからのお！
わしゃあ、大賛成じゃきい！

後藤: お会いするのは、当日が初めての2人。だからこそ何が飛び出すかわかりません！大いに期待しましょう！



定員90名 目標達成！ Check!

中嶋: まずは、勉強会参加者90名！という目標を達成できたこと！もちろん交流会も会場がぎっちり埋まりますから！**イエーイ!!**

後藤: 初めての秋田での開催。しかも震災の影響も心配しましたが、やはり集客するだけの魅力ある企画になっている！という証拠ですよ♪

中嶋: 多くの方たちがこの秋田を訪れてくれて、大いに刺激し合い、そのイズムが秋田にも広がっていったら**サイコー!!**

意見交換会で思いっきり語り合いたい！ Check!

静香: 私はやっぱり意見交換会が楽しみだなあ～♪

私と一緒に「**なまはげダンス**」を踊ってくれそうな人も出会えるかも♪

本間: …ふん、ふん、そうじゃのお。

理紗: そうだね。今回のテーマにもなっているとおり自分の殻から飛び出す、そしてそこからどうつながるか分からないもんね。そういったつながりが秋田県内にも広がっていきたいよね。

本間: …なまはげダンスのつながり？

一步踏み出した生の声にも注目！

児玉: 意見交換の前段での事例発表にもぜひ注目してほしいです！

3名の方から、それぞれ現在の活動に至った経緯や想いをじかに聴ける機会ですもんね。

松永: そうやなあ。ワイは人前でしゃべるのは苦手やけど、結構熱いもん、持つとるでえ～！

児玉: いきなり入会したての僕が、こんな場所で話せる機会をいただき、ホント嬉しいです。

松永: そういところがOMのええところや！ワシらだけのOMじゃないからのお。志さえありや、誰でも参加できて、その想いを共有できる場を演出していくんじゃ！

秋田の街並みをゆ～っくり散策しよう！

理紗: 翌日の24日は、秋田の文化、街並みをゆっくり散策するエクスカージョン！

美沙緒: 二日酔いの体にはちょうどいいですね♪

理紗: 「竿燈」の見学と体験、その他ご案内人のおすすめコースを散策！

美沙緒: お屋は、農家さんが丹精込めて作られた秋田米のおにぎりや漬物も用意します！

理紗: さあ、この週末の秋田勉強会、私たちにきてくださいね♪

國松: つ、ついていきます…。



三ツ星グルメのまち 長岡へ いらっしゃ〜い♪♪

案内人 新潟県長岡市 永井 英雄 さん

長岡といえば、みなさん何を連想しますか？

おそらく、**米・日本酒**が思い浮かぶのではないのでしょうか。しかし、長岡はそれだけではありません。**“三ツ星グルメ”が長岡にあること**をご存知でしょうか？

某世界的グルメガイドブックで**“三ツ星”レストラン**とは、『**そのために旅行する価値がある卓越した料理**』を出すお店にのみ与えられる最高の名誉。そこで、長岡の腹ペコ王子「**ナガイシュラン**」こと**永井英雄**が、東北OMの皆さんにぜひ食べていただきたい長岡の“三ツ星”のグルメを紹介します。きっとあなたも長岡に行きたくなること間違いなし！！

◇長岡名物「イタリアン」

「名物がイタリアン？」と思われた方、実はパスタでもピザでもありません。**イタリア料理ではないんです。**

“イタリアン”とは、長岡っ子のソウルフード。焼きそばらしきものにオレンジのソースがかかっている謎の食べ物です。**「フレンド」**というファーストフード店で食べることができます。



▲古き良き昭和の時代を感じさせる「フレンド」の店内



▲これがイタリアンだあ！



▲ホントにビールに合わないギョウザ？



▲メニューです♪



「焼きそばにミートソースをかけたただけでしょう？」と思ったら**大間違い！**

焼きそばにミートソースをかけても、この味にはなりません。「じゃあ、他のものに例えるとどんな味なの？」と聞かれても例えるものが見当たらない。「食べたらこの味が分かるよ！」としか答えられない。

それが“イタリアン”なんです！ おすすめは**「イタリアン大盛りミートW」**。メニューに載ってませんが「角煮イタリアン」なんてものもあります。

そして、もうひとつフレンドに欠かせないのが、**“ぎょうざ”**です。「ファーストフード店にぎょうざ！？」と思うでしょ？でも、長岡っ子にはまったく違和感がありません。

味はシンプルでありながら奥が深い。**数日経つとまた食べたくなる不思議（魅力的？）な味**です。ほかのお店では絶対に味わえない香りと歯ざわりが特徴。普通はぎょうざに**ビールが付きものですが、なぜかこのぎょうざには合わないんです。**

ちなみに、この「フレンド」、ドライブスルーが設置してあるんですが、なんとあの**世界的ハンバーガーショップM社よりも、1年も早く日本にドライブスルーを設置している**んです。でも、M社のホームページには、「日本で初めてドライブスルーを設置」って書いてあるんです。M社さん早く訂正してね。

なお、ドライブスルーの写真は**あえて載せません**。楽しみは長岡に来る日までとっておきましょう！

謎のイタリアンを食べるもよし、ビールに合わないぎょうざを食べるもよし、M社よりも早く設置されたドライブスルーを見るもよし、気になる方はぜひ長岡へお越しください。

ちょっと教えてイタリアンQ&A

Q “イタリアン”の発音を教えてください。

A イタリア料理の“イタリアン”と同じ発音です。

Q 長岡でイタリア料理を食べたいときは、何て言えばいいの？

A “イタリアン”が食べたいと言うと、間違いなくフレンドに案内されます。具体的に「パスタやピザが食べたい。」と言いましょう。

Q フレンドのほかに“イタリアン”を食べられるお店はありますか？

A 長岡ではフレンドだけです。ちなみに、新潟市では「みかづき」というお店で食べられます。フレンドは中細麺で箸を使って、みかづきは太麺でフォークを使って食べる違いがあります。味もちょっと違うよ。長岡っ子はやっぱりフレンド！

Q “イタリアン”は通販でも買えますか？

A 残念ながら買えません。どうしても食べたい方は長岡までお越しください。
「ナガイシュラン」がご案内しますよ♪

◇あぶらげ

250余年の時の流れを今に伝える栃尾地域の名物「ジャンボ油揚げ」。

栃尾の方言では「油揚げ」のことを「あぶらげ」と呼びます。大きさが一般の油揚げとは**比べ物にならないほど大きく**（長さ20～22cm、幅6～8cm、厚さ3cmくらい）、また味も美味しいことから**日本一と呼ばれています**。

中の芯までふっくら揚げるために低温と高温の2つの鍋で二度揚げをしています。

こんがりと焼いて、大根おろしや生姜醤油で、また、肉・魚・野菜などと煮込んでもおいしいですよ。ちなみに厚揚げとはまったく別物。違う食感・味わいです。

この“あぶらげ”と上杉謙信公から生まれたゆるキャラ「あぶらげんしん」もPRしています♪



▲煮物でもイケます。噛むとお汁がジュワツと溢れ出ます。

▲揚げたてのあぶらげ。私はこれに納豆を挟んで食べます。

◇しょうゆ赤飯

赤飯なのに“**赤くない**”。



長岡で赤飯といえば、**しょうゆ風味の茶色いおこわ**です。大粒のいんげん豆が入っているのが特徴。私が子どもの頃は、このいんげん豆が邪魔でよく残していたものです。じいちゃんによく叱られました・・・

東北地方では、甘い赤飯があると聞いています。**各地の赤飯を持ち寄って試食会**を開催するのも楽しいと思うのですが、みなさんいかがですか？



▲私が結婚した時もこの茶色い赤飯をご近所に配りました♪



▲ゆるキャラ「あぶらげんしん」よろしく♪



◇シティホールプラザ「アオーレ長岡」

最後に、グルメ以外の長岡の紹介をします。

シティホールプラザ「アオーレ長岡」は、長岡駅前の旧厚生会館の跡地に整備する施設で、「アリーナ」、「ナカドマ(屋根付き広場)」、「市役所」が一体となった**全国初の複合施設**です。設計者は、世界が注目する建築家・隈研吾さんです。

あらゆる世代の多様で自発的な活動を実現する場として、**市民活動の「ハレ」の場**として、誰もが憩い集う『市民交流の拠点』です。平成24年春オープン予定。

◇長岡まつり大花火大会

長岡の代名詞と言えば、やっぱり「**花火**」です。今年も8月2、3日に開催します。

長岡の花火は、裸の大將・山下清画伯が描いていることでも有名ですが、実は昭和20年の終戦直前に起きた長岡空襲で亡くなられた方々を慰霊するための「**祈りの花火**」として、昭和21年から続いているということを知らない方は意外と多いのではないのでしょうか。

また、平成16年には、長岡は中越大地震の被害を受けましたが、「みんなががんばろう」を合言葉に**復興祈願花火「フェニックス」**を誕生させました。被災者に「立ちあがる勇氣」と、世界中からのご支援に「感謝の気持ち」を託したフェニックス花火は、すべての人に感動を与えました。**長岡の花火とは、長岡市民の再生と希望の象徴**なのです。



▲シティホールプラザ「アオーレ長岡」の外観イメージ(上)
イベントのほか、様々な利用方法が期待される屋根付き広場(下)



▲復興祈願花火「フェニックス」。花火の真ん中に不死鳥が羽ばたいています。



以上、ナガイシユランこと永井英雄がお届けしました！
ぜひ、長岡にいらっしや〜い!!

次回は越後3部作の完結編として、新潟市の魅力を存分に紹介していただきます♪
お楽しみに☆



被災地レポート～釜石市を訪れて見えた『差』～

レポーター 岩手県北上市役所 宮崎 詩織 さん

第7回勉強会in仙台にて、被災地レポートをしてくれた宮本光さんとの出会いがきっかけで、7月2日、OMメンバーが被災地 釜石市を訪問しました。

震災以降、初めて訪れた釜石市の状況を見た宮崎詩織さんのレポートをお届けします。

東 日本大震災から4ヶ月。震災以降初めて訪れた沿岸被災地

後藤好邦さん(山形市)からのお誘いで、釜石市を訪れる機会を得た。東日本大震災発生以降、沿岸へは一度も行っていない。自分の目で現状を見たいとは思っていたが、震災直後は渋滞の一因になりたくなかったし、4ヶ月経った今なら現地に行くことも許されるかなと思った。ボランティアにいくわけでもなく、ただ沿岸被災地の状況を見てくるだけ。というところに、正直申し訳なさがあった。でも、宮本光さん(釜石市)は、多忙な中のせっかくの休日に時間を割いてくれた。来釜を楽しみにしてくれていたし、「仙台の勉強会のときみたいに楽しくお話ししよう」と言ってくれて気持ちが楽になった。

当日、後藤さんの車で釜石市へ向かう。北上市との中継地点である遠野市には、震災直後は自衛隊車両が数多くいたが、今はほとんど見かけなくなっていた。

集合場所は釜石駅横の「シープラザ釜石」。到着したが被害は目に見えない。海に近くにつれて被害がひどいと聞いていた。ここまでは津波が来なかったということらしい。

シープラザ周辺では、青天の下、数多くの屋台が出ていて賑わっていた。復興を目指す熱気を感じた。

偶然にも宮本さん、佐々木範久さん(北上市)と落ち会えた。宮本さんはさわやかな笑顔で登場。範久さんは帽子にマスク姿で体調が悪そうだった。一緒に北上から派遣で来ているもう1人の職員が、先週から体調を崩していると聞いていた。範久さんにも疲れが伺える。

釜石市役所へ～釜石駅から海へ向かうまでの街並みが一変～

まずは釜石市役所へ向かった。宮本さんの車に全員で乗り込んで向かう。釜石駅を過ぎて海の方へ向って走り出す。何分もしないで車窓からの景色が変わった。建物の1階のシャッターがへこんでいる。赤旗が連なっている。ガレキが至るところに見えてくる。さっきまで、ごくごく普通の景色だったのに。このちょっとした差で、被害があまりにも違っていた。

途中、範久さん達が宿泊している「バンション」に寄る。目の前は墓地。カーテンを開ければ墓地。夜は暗闇で人通りもない。周りに食堂や商店もない。建物は古く、耐震は…?と思ってしまった。

釜石市役所に到着。市役所前の通りに降りてみる。震災当日、海の方から波が一気に押し寄せてきたと宮本さんの説明。現在は道路のガレキは撤去されて、かなりきれいになったとのこと。確かに車が十分に通れる。が、建物は2階の窓ガラスも割れていし、側溝はガレキで埋めくされていて、そして景色があまりにも広い。建物がなくなっているからか。近くではガレキ置場らしきものもある。そこでは重機を使って作業している方々の姿があった。

市役所の中へ。木造校舎を思わせるレトロな空間は静かだった。土曜日も普通に職員がいる。総務課の上司の方々も嫌な顔一つせず私たちを迎えてくれ、説明もしてくれた。



▲レポーターの宮崎詩織さん(左)と、同行した佐藤美和子さん(右)



▲市役所前で佐々木範久さん(中央)を囲んで一枚☆
佐々木さんは、現在、北上市から派遣職員として釜石市に滞在中

映像に映し出された津波の力、そして波の唸り

屋上から見える向こうの海からの津波がすべてを覆った

津波が襲った当時の動画を見せてもらった。市役所の正面玄関から撮った映像。

目の前に十字路の道路がある。その左から一気に黒い波が来た。ここまで来ないだろうと思っているのか、住民が歩いて避難しているのも見えた。一気に波が来ると車やら何やらものすごいスピードで流れてくる。自動車が普通に走っているのと変わらないスピード。職員の「逃げろ! 逃げろ!」と声が枯れそうなくらいの叫び声と、波がうなっているかのような無気味な音が聞こえる。波は正面玄関前の階段まで来ていた。

宮本さん達は2階の総務課にいた。市民は高台の中学校へ避難させ、職員たちは今何をすべきかを考えていた。まさか、海から500m離れた市役所まで津波が来るとは思わなかった。逃げるとかではなく、このフロアで自分たちは何をしようか。を考えていた。と。しかし、波を目の前にして慌てて屋上へ避難した。外にも出られず、一夜を市役所で過ごした。

私の津波のイメージは「ザッパーン」来るものだった。映画とかにででできそうな。でも実際は、じわじわと静かに、でもそこらいきなりとんでもない力で襲ってくるものだった。足首まで水に漬ただけで足もとが救われ波にのまれるらしい。津波に流される車から出られず、窓を叩いて助けを求める人の姿を見た職員もいたという。

屋上に案内してもらった。向こうには海が見える。あそこからとんでもない勢いで波が来た。TVで見たあの光景。実際ここから見れば当たり前だが市街は広い。ここがすべて波で覆われた…?



映像で見た場所を直に歩き、あの瞬間がいかに地獄だったか 否応なしに想像することができた

市役所を出て再び周辺を歩いて周る。最初は失礼にあたると思いマスクをしなかった。でも、ガレキ撤去作業をしている辺りにはさすがに埃がひどくてマスクをした。車道からガレキはなくなったものの、ガラスなどの破片は残っている。自転車のタイヤはパンクするらしい。

当たり前だがサンダルなんかじゃ歩けない。自分が今歩いているここは、動画で見た人が流されたところ。改めてここを歩くと、その瞬間がいかに地獄だったかを少しでも想像できた。曇りつつない天気だったが、寒気がして怖くなった。

1階がぐちゃぐちゃの建物。映像や写真で見たものがそこにある。自分がそこに置かれると自分がいかにミジンコかがわかる。波が来たらあっけなく流される。ただの波じゃなくて車やガレキと一緒に迫ってくる黒い波。

大沼さんは金髪女性にからまれていた(余談)。

高台の津波避難場所へ階段を登る。急。登った先の避難場所は海拔20m。そこから少し下っただけで、右手の山側は被害が見られないが左手の建物は2階に何かがぶつかってへこんだ跡がある。「差」。

キラキラ輝く海、でも視線をずらせば傾いた建物、ガレキ、重機…

被害の更に大きかった鶴住居町へ向かう。

ここは周りがすべてガレキ。ドラッグストアは1階がまるでなく向こうが見える。1階駐車場&2階テナントのお店みたい。海のすぐ近くまで行った。カーナビでは砂浜がある。が、目の前はすべて海だった。

この日は快晴。キラキラ輝く海があった。おだやかで潮風が心地いい。現実じゃないみたいだった。でもちょっと視線をずらせば、傾いた建物とガレキに重機がある。海の近くの木々は赤くなっているものもあった。塩害かな。と思う。

もう、言葉を発しれなくなっていた。何もしゃべる気になれない。よくわからない。海の実真中に傾いて見える防波堤は、市街への津波の浸水を6分間遅らせたい。最初の集合場所だった釜石駅まで戻ってきた。きれいな街並み。これが「差」か。

屋台？の中にキッチンカーが連ねていた。みんな笑顔で明るかった。今度はゆっくり巡ってみよう。みんなでラムネを飲んだ(余談)。

すぐ近くのサンフィッシュ内の「まんぶく食堂」にて、みんなで「5きげん政宗定食」をいただく。ちょうど秋田県の滝本さんもいた。釜石の地で秋田県と山形県の人が再会。やっぱり海の幸はおいしい。うに、いくらに当たり前においしい、1番感動したのは「あさりの味噌汁」。幸せを感じる。やっぱり人間、食べ物だ。



▲5きげん政宗定食☆ 確かに旨そうですね♪



普通に生活できることが、どれだけ幸せなことなのか、改めて実感…

今度は実際の避難所へ。

高台にある小学校の体育館。この日は太鼓の演奏があるとのことで、さりげなくお邪魔すること。着いた際には太鼓の音はしなかった。けど、中では体操をやっていた。NHKのキャラクターらしく、子供たちがサインをもらうための列ができていた。

この日は天気が良かったが風も気持ち良かったので、体育館は涼風が通っていて湿度はそれほど高くなかった。が、これからの時期を考えると。

避難所の壁に張り巡らされている掲示物を見る。「新日鉄入浴案内 7月1日 7月4日」。この時期で3日に1回のお風呂。保健所からの指導にはお弁当は次の日まで取っておかないこと、衣はとること等書いてあった。

毎食お弁当。固い床に布団を敷いての生活。ここは間仕切りもなかった。

自分自身は、電気も水道もとつきの昔に復旧して普通の暮らしをしている。いくら節電しているとはいえ、自分の家があり、炊きたてのごはんを自分の好きなおかずで食べ、自由にTVを見たり、みんなでどこかへ出かけたり、好きなことがいくらでもできる。でも、ここにはそれが無い。今もなお、それが無い。わかっているつもりでも、現実に避難所生活は今もある。今日自分には帰る家がある。お風呂に入れる。普通の生活をする。どれだけ幸せなことか。

避難所を1人で運営していた市職員は仮設住宅に当選した。その瞬間から避難所の人たちの態度が変わった。役所は裏で操作したんだろ。と。もちろんそんなことはないし、彼自身、自分の家が流されている中でずーっとずーと避難所を支えてきた。「差」。

港に打ち上げられた巨大な船。廃虚のような魚市場…

再び海へ向かう。釣りをしている人の姿があった。大沼さんが釣り人に聞いた話では、いまの魚は何食べているかわからないし、深く糸を垂せば何かにあたる。だから、浅いところだけ糸を泳がせている。と。引き潮でたくさんの人が海へのまれた現実。

港にある魚市場へ向かう。巨大な船は、港の上にあった。海上で津波に押された船は引き潮で今度は海へ引っ張られた。そして港の上で停まった。津波が押し寄せてきた勢いもだが、海へ引っ張る力ものすごい。これだけ大きな船が動く。人は…

魚市場は鉄筋がむき出しで廃虚のようだった。そして地盤は大きくゆがみ、地面のコンクリートの亀裂からは海水が染み出していた。この時間、海はどんどん満ちてくる。海面と港の境がなくなっていく。潮が満ちればここは海になるだろう。静かに徐々に海水が広がっていくのが不気味だった。



▲港に打ち上げられたままの巨大船。津波の脅威を静かに語りかけている



▲宮本さんを囲んで一枚☆
今度は、僕たちも逢いに行きますからね♪



No62 戸嶋 悦子 Etsuko Toshima

◆生年月日:1986.10.26
◆所属:秋田県由利地域振興局
◆出身:秋田県北秋田市鷹巣
◆経歴:秋田県立大館鳳鳴高校理数科、国際教養大学グローバルビジネス学科、シェフィールド大学マネジメントスクール等を経て、2009年4月秋田県庁に入庁。産業経済政策課、商業貿易課での勤務後、現在、由利地域振興局総務企画部配属。

◆好きなもの:

なんといっても「お酒っ」♪ 秋田のお酒の美味しさを広めるため日々奮闘中です。おすすめは・居住地秋田県由利本荘市の蔵元さんの「雪の茅舎 山廃純米」「純米吟醸 鳥海山」。日本酒になじみのない方も秋田のお酒っ、のんでたんせ!

◆モットー:“秋田流寒造り・長期低温発酵” お酒も人も、厳しい環境の中でじゅっりかもされて、ふくよかで気香のある味わいに成長するのが秋田流ですw・・・とか言ってみたり)

◆東北OMIについて:みなさまはじめまして。東北OMIについて私は最近になってはじめて知りましたが、東北にこんなに活動的で、東北を愛している人がいるのだと、とても感動しました。私も、東北、だいすきです。東北OMIに参加して、『想い』を『かたち』にするためのノウハウや、ネットワークをつかんでいけたらな・・・と思います。この先どうぞよろしくお願いします!!



↑ 2011.03 LAにて秋田の日本酒をPR

ハザードマップを遙かに超える想定外の津波だったことを実感

津波は川をも逆流して街を襲った。
橋のてっぺんにいた人だけが助かった。車が往来する橋が波で埋まる? 今車で走っているところも津波にのまれる? 後ろからも津波、逃げているはずなのに前から、川を逆流した津波に襲われる。逃げ場を失う。「逃げ場がない」恐怖。

駅横のシープラザ釜石内に対策本部があった。貼ってある市内の地図を見る。ハザードマップを遙かに超えた今回の津波。実際に見て歩くことでその「広範囲」を実感した。窓口関係はここに集中されていた。喫茶店だったであろうフロアは、広報班のスペースになっていた。

コーヒープレイク。和やかなひととき。
ご飯を食べたからか範久さんは元気になっていた(余談)。

こうして、釜石訪問を終えた。宮本さんは1つ1つ丁寧に説明してくれた。当時の状況も今の状況も。話せば楽になることもあるけれど、話せば辛くなることの方が多分にある。本当に感謝。ありがとうございました。

住民の方々の計り知れない“強さ”を実感!

微力でも自分のできることを“やり続けること”が大事なことです!

この1日の中で、景色のギャップに気分が浮き沈みが激しい自分がいた。
たった数時間しか釜石にいないのに。とすれば、現地の方々の「強さ」は計り知れない。住民の中でも、職員の中でも「差」に苦しんでいる。全壊、半壊、損傷なしの人たちの間でどうしても心の溝が深くなってしまう。笑顔を見せてくれたのがものすごく嬉しかった。

今回、釜石へ訪問し被害を目の前で見て、自分のできること、個人の力でできることはものすごく限られていると思った。なら、まずは地元で消費して活性化のお手伝いをする事かな? と思った。キッチンカー巡りをして、お土産たんまり買い込んで、微力でもお金を落とす。そして、それを「続ける」ことが大事なんだと思った。

よく「ともに頑張ろう」とか聞かれけど、でもやっぱり、それなんだと思った。ありきたりな言葉かもしれないけど、でも、実行し「続けて」いくなら、その言葉がふさわしい。

視線を被災地へ、復興していく姿をともに見続けて、お手伝いを求められたらいつでも行ける準備をしておく。

誰にでもできる、1番素敵なことではないかな。釜石へ行って本当に良かった。

ニュースレター掲載希望者募集!



OMニュースレターは、東北内外へのOM活動の情報発信という側面もありますが、基本コンセプトは、OMメンバー間の“顔”の見えるコミュニケーションツールとして活用していただきたいという趣旨で定期的に配信しています。(※ぜひ、OMホームページから、これまでのバックナンバーをダウンロードしてご覧ください!)

ニュースレター編集部(広報班)では、OMメンバーにスポットを当てた各種コーナーへの掲載希望者を大募集しています。
自薦・他薦問わず、掲載希望のある方は、編集部へご一報ください♪

◆木の実あつめ

OMメンバー個人の地域づくりなど各種活動の様子やその想いなどを紹介するメンバーズコラムです☆

◆OMの素材

OMメンバーの自己紹介コーナーです! 思う存分、自己アピールしていただきます☆

◆Pray for Tohoku

大震災からの復興に向けたOMメンバーの活動や被災地で懸命に働く仲間のメッセージなど、復興に向けたOMの継続的な活動の一つとして掲載していきます。

【編集部連絡先】

アドレス lib11@mtf.biglobe.ne.jp

(Newsletter編集部:宮城県栗原市 鈴木 敬)

End roll

秋田勉強会に向けて、先月号から秋田の魅力について紹介していただきました。今まで知らなかったことも多く、これから秋田に行く回数が増えそうです♪

※「OMの素材」コーナーでは今月号から名簿登録No.から通しNo.に変更しました。ということで、戸嶋さんが62人目の登場になります♪

